

家畜飼養学特論実験 (2単位)

担当者氏名 祐森誠司・谷口信和・池田周平

◆学習・教育目標 (到達目標を記載)

家畜飼養学特論において講義したなかでも、試験に供試する動物(家畜)の飼養条件(栄養状態)は動物実験指針の内容に該当する項目であり、適正な状況であるか、否かを常に確認する必要がある。これは市販飼料を給与していても、給与量の妥当性、給与時期(成長ステージ)の妥当性、等と関連している。また、我が国の家畜の飼養管理・飼料構造の実態と問題点について論議し、経営経済的側面から理解を深める事も狙いとする。本実験では修士、博士の論文作成や学会報告における供試動物用飼料の試験調製とその成分分析および管理データの解析手法等においてパソコンを用いて体験するなどの実践を目的とする。なお、時間制約があるので主として集中的な形式で行う。受講学生においては、器具の取扱い等を通じて基礎的な技術の取得が叶うものであり、それが後進学生の研究指導に応用できるレベルとなる必要がある。

◆取り扱う領域 (キーワードで記載)

飼料成分 _____ 栄養素 _____ 栄養素要求量 _____ 維持・成長 _____
 飼育管理 _____ 飼料構造 _____ パソコン解析 _____ 経営分析 _____

◆授業の進行等について

	テーマ	内容	準備学習(予習復習)等の内容と分量	
1	単味飼料の実物鑑定 1	・ 穀類の実物鑑定を行う	1~20回の講義時間に配分した内容については、学部における実験実習において基礎的な内容を経験しているので、各回のテーマ内容を確認し、予習として学部講義の復習にも努め、毎回の講義時には不明な内容の質問を心がけることで内容理解を深めることとする。講義の進行に伴い、予習内容は前回の継続内容となるので、復習と予習が密な内容となり、実践内容のレポート作成を毎回行っておくことで内容理解は深まる。	
2	単味飼料の実物鑑定 2	・ 油実粕類、豆類の実物鑑定を行う		
3	単味飼料の実物鑑定 3	・ 製造粕類の実物鑑定を行う		
4	単味飼料の実物鑑定 4	・ その他飼料原料と粗飼料の実物鑑定を行う		
5	対象動物(家禽)の栄養要求量産出 1	・ 動物の要求する栄養素量を算出し、飼料配合を可能とするために、対象動物の条件を定める		
6	対象動物(家禽)の栄養要求量算出 2	・ 飼養標準に則り、動物の栄養素要求量を算出する		
7	飼料の配合設計 1	・ 嗜好性、各飼料の特徴を考慮して栄養要求量を満たすべく、飼料の配合割合を定める		
8	飼料の配合設計 2	・ 配合設計した飼料内容を検証する		
9	飼料配合 1	・ 設計に基づく原料の準備(適正粒度調整)		
10	飼料配合 2	・ 設計割合に基づく原料の混合		
11	配合飼料成分の検証 1	・ 配合飼料の成分割合を検証するサンプル調製		
12	配合飼料成分の検証 2	・ 水分含量の定量		
13	配合飼料成分の検証 3	・ 粗灰分の定量		
14	配合飼料成分の検証 4	・ 粗タンパク質の定量		
15	配合飼料成分の検証 5	・ 粗脂肪の定量		
16	配合飼料成分の検証 6	・ 粗繊維の定量		
17	配合飼料成分の検証 7	・ ADFの定量		
18	配合飼料成分の検証 8	・ 熱量の定量		
19	配合飼料成分の検証 9	・ 可溶無窒素物の算出		
20	配合飼料の嗜好性確認	・ 調製飼料の嗜好性に関して実践で確認する		
21	食料消費と畜産物 1	・ 先進国の歴史的動態の統計分析		21~30回の内容は、FAOの統計を基礎とし
22	食料消費と畜産物 2	・ 今日の世界における諸国の構造的差違の分析		

23	畜産物需要の変化	・ 先進国の歴史的動態の統計分析（卵・乳・肉）	ながら、先進国の固有の統計を活用して、家畜飼養学特論において検討したテーマに沿って、統計分析を行った結果をレポートしてもらい、討論するものである。
24	畜産物需要の構造	・ 今日の世界における諸国の構造的差違の分析	
25	家畜飼養と飼料構造 1	・ 先進国の歴史的動態の統計分析	
26	家畜飼養と飼料構造 2	・ 今日の世界における諸国の構造的差違の分析	
27	食料自給と畜産 1	・ 先進国の歴史的動態の統計分析	
28	食料自給と畜産 2	・ 今日の世界における諸国の構造的差違の分析	
29	今後の畜産と飼養法 1	・ 先進国の歴史的動態の統計分析	
30	今後の畜産と飼養法 2	・ 今後の世界における諸国の構造的差違の分析	

◆教科書及び資料（授業前に読んでおくべき本・資料）

書名／著者／発行所（発行年）

必要に応じて適宜、資料は配付する

◆授業をより良く理解するために便利な参考書・資料等

書名／著者／発行所（発行年）

新編飼料原料図鑑／飼料原料図鑑編集委員会／（社）日本科学飼料協会

ぜひ知っておきたい日本の畜産／平野 進編著／幸書房（2008）

◆評価の方法（レポート・小テスト・試験・課題等のウェイト）

レポート（80点）、口頭試問（20点）による評価を行う。

◆オフィスアワー

祐森： 前・後期を通じて木曜日 3、4 時限目に研究室にて質問等を受けつける。

谷口： 前・後期を通じて月曜日の 10:00～11:45 に研究室にて相談に応じる。

池田： 前・後期を通じて金曜日 1、2 時限目に研究室にて質問等を受けつける。

◆その他受講上の注意事項

特になし。